



| | |
|-----|------------------------------------|
| 日 時 | 2022年3月1日(金) 19時00分～20時10分 |
| 場 所 | 板橋区立若木小学校 多目的室 |
| 出席者 | 13名(【地域委員】9名、【行政委員】3名、【若木小学校教員】1名) |
| 欠席者 | 0名 |
| 傍聴人 | 2名 |

議事概要

1 委員長挨拶

- ・委員長は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、本日もオンライン併用の準備があることを案内した。
- ・委員長は、本日、2名のオブザーバーについて参加を了承していることを案内した。
- ・委員長は、文科省の報道発表を引用し第5波よりも幼児児童生徒の感染者数がおよそ2.6倍であることを紹介した。また、若木小学校でもこれまで複数回の学級閉鎖を行いつつも、児童の学びを保障しながら取り組んでいることを紹介した。
- ・委員長は、本日の議事内容等について説明した。

2 校長、教職員より

- ・校長が児童及び教職員の健康状態について概況を説明した。
- ・校長は、児童・教職員に新型コロナウイルスや胃腸炎の感染が見られる中、校長、副校長も授業に入る中で、児童らの学びを止めないように配慮していることを語った。
- ・校長は、感染拡大の状況下において、学校保健係や校医と相談しながら早めに対応していることを語った。
- ・校長は、一人一台端末の製品不具合により端末が一時回収されたことを説明し、その後の対応なども併せて説明した。
- ・校長が児童らの卒業に向けて、PTA等と連携しながら進めていることを説明した。また、卒業感謝の会については、オンラインで家庭に配信する予定であることを案内した。
- ・校長は、卒業式に向けて、歌唱指導が課題であることを語った。
- ・教務主任は未決予定の中、引き続き検討しながら計画及び実行していくことを語った。

3 学校地域支援本部より

- ・委員が12/18公開の受付、1月の書き初め展の受付をしたことを説明した。また、読み聞かせが読書週間をきっかけに再開されたことを紹介した。このほか、箏の外部講師の招聘や、これからボランティアを募り、図書整理をする予定であることを説明した。
- ・委員は、ボランティア数が少ないため、来年度は在校生保護者も含めPTAと連携しながら募集を行いたい旨、意向を示した。
- ・委員は学校支援地域本部の呼称を「わかぎ応援団」とし、使用することを説明した。

4 PTAより

- ・会長が12月に実施した6年生イベントについて紹介した。今後対象児童を広げたい意向が示された。けん玉については、学校公開が中止になったため実施できなかったが、来年度に実施したい意向を語った。
- ・会長は次年度の役員については、総会で承認されることにより決定されることを説明した。

5 各委員から

(1) 来年度の学校経営方針(案)の承認

- ・校長が学びのエリアの教育目標や教育課程届について説明した。
校長は新しい時代に向けて、これまでの経験則にとらわれずに教育にあたっていきたいことを説明した。基本方針については、変更はないが、力点としては学力向上に向けて、教員の授業力向上を図りたい旨説明があった。また、総合的な学習の時間について、発表だけでおわらせず、次の行動に移せるような指導をしていきたいと説明があった。またさらに、教職員と保護者と連携し、いじめのな

い学校、どの子どもとりこぼさない学校にしていきたいと意向が語られた。このほか、SDGs、特別支援教育、特別活動についても力を入れていくことが語られた。

- ・委員が小学校の専科制がどのようになるか、質問した。
- ・校長は、現在行っている専科制について説明した。
- ・委員は、学びのエリアがあるので、中学校の教員の活用などについてもぜひ検討してほしい旨、意見を出した。
- ・CS委員会として、次年度の学校経営方針について承認した。

(2) 今年度のCSの成果と課題

①各委員から出された意見や情報の中でCS委員会に関わる成果と課題を抽出し、まとめると以下のとおりである。

■新型コロナウイルス感染拡大防止の中、学校に訪問しづらい状況があった。よって、こうした状況の中でどのようなことができるか引き続き検討し、実行する必要がある。

- ・あいキッズは新型コロナウイルスに関わる状況は学校と同様であるが、運営会社が所有する他施設とネットでつなぎコミュニケーションをとることなどを検討している。
- ・寺子屋は、宣言等が出るたびに活動の制限がかかる。他校の中に一部、宣言等解除と同時に活動を実現できている事例もあったことから、こうした事例を参考にしながら次年度運営していくことを検討している。

■CS委員会の認知度が低いため、目に見える成果につなげていきたい。例えば、PTAによる学校への備品提供などのように見える化が課題である。

■学校支援地域本部に関連し、コロナ禍の下だからこそ、これまでには無いボランティア活動ができた。

■CS委員会への教職員の参加が課題である。

- ・勤務との関係もあるため、その仕組み作りを学校として整備したい。

■CS委員会が学校に対して「若木小学校 欠席・遅刻・連絡フォーム」の導入を強く推したことにより、導入実現に至ることができた。

②学校に関わる要望として以下のようなものがあった。

- ・ボランティア不足を防止するため、学校の中でも小学生段階からボランティアとはどういうものなのか指導する必要がある。このことが、不登校支援等のボランティア確保にも繋がると考える。
- ・学校が抱える問題について町会を通じて地域と共有して欲しい。また、その課題解決のために、町の人材活用をするとよいと考える。

次年度CS委員会への申し送り

(ア)CS委員会の活動について、次年度もコロナ禍を前提に進めていく必要がある。

(イ)CS委員会へ教職員の参加を促進するために、学校の体制づくりを工夫する必要がある。

なお、2021年度CS委員会では、2020年度CS委員会で話題に上り、学校側も課題として抱えていた、欠席等連絡フォームについて熟議を実施した。ここでは、具体的な提案がされ、学校側の課題の解決につなげることができたと考える。

2022年度は、CS委員会へ教職員が参加することで、学校が抱える課題についてさらに検討することが考えられる。これにより、「CS委員会」と両輪・協働の関係である「学校支援地域本部」やPTA、寺子屋、町会とも情報共有し、また新たな課題解決へとつなげていくことが考えられる。また、こうした活動により、CS委員会の認知度向上を期待したい。なお、現在、議事録ベースで本紙「CS委員会だより」を発信しているが、その発信内容、担当者についても検討することも考えられる。

次年度学校側への要望申し送り

・制度の中で学びのエリアを活用した教科担任制についても具体的に検討するとよい。

・地域人材をゲストティーチャーとして活用検討するとよい(第4回CS委員会でも同様の意見有)(前述、CS委員会への教職員参加が促進されることでよりマッチングがよくなることを期待できる)。

・将来的な地域ボランティアの確保のためにも、ボランティアとは何かについて、学校の教育活動の中でもとりあげていくとよい。

6 備考

次年度CS委員会については、新年度新たに委嘱された委員をもって開催日を決定する。

| | | | |
|-----|-------|-----|----|
| 作成者 | CS委員長 | 確認者 | 校長 |
|-----|-------|-----|----|

